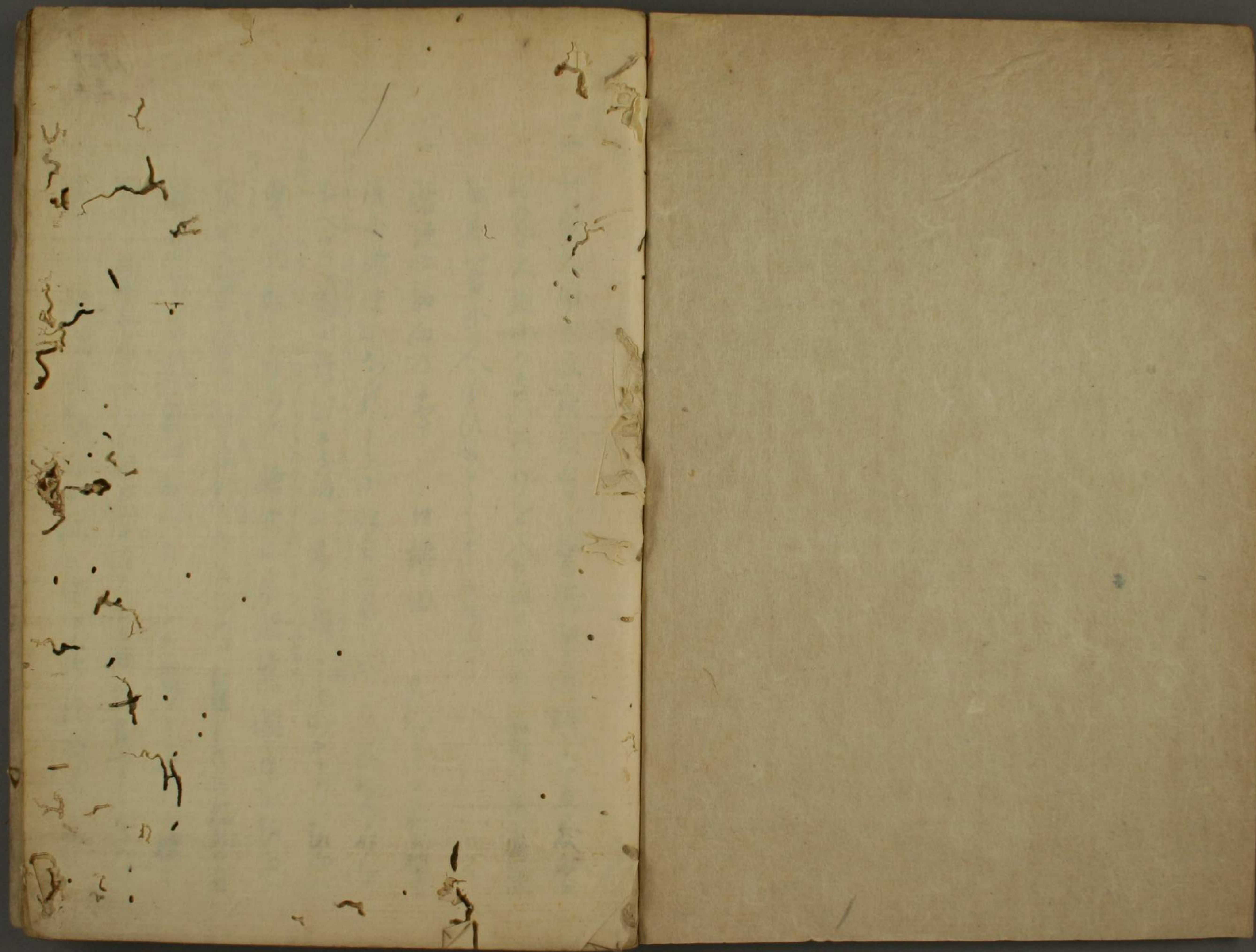


華乃之百子條

下

ヲ多  
1.709  
9止





門多  
1709  
卷 3 止

ひげ巻三本中し巻末し方三也



一 一 大目と云座敷有 書院多との眼よ一専敷有  
 此を大目小りきいりを入り成りたり昔ハ教座敷  
 と云座敷即人よひひりし中りあり  
 一 一 治次の能向の事 口傳曰 只しことと極て

後小治次小る極ふ小任りの母ハ何ハ此ハ名を  
 正へて道をけけを後小ふと極るこのなり 能向ハ  
 下治次ハかの字を極ふもよめくはくしを極る幸このおまか  
 見圖知とりつて治次小る治見圖りと能向  
 定をも小合て仕立極るこのなり 昔よりのおまか者  
 野出るとの風氣をふりりく皆く昔の禮  
 あり道安るといふ事とくはし 海経中りまこと  
 興く治次の能向は 仕立極るなり





法と書くは...  
法ハ勿論...  
要也...  
書也...  
事なり

世理ニニ落ニニ落タリナリ法ハ直也

士丁 三幅一對口幅一對五幅一對百半作法有八幅述  
有... 表... の一巻書有... 口傳可有...

士一 雲跡善名の作法寸人...  
是と右向を...

十三 柱隠しと云掛物... 必らずを... 云也...  
首... 傳...  
真の... 名...  
口傳有... 事...

五 雲跡の箱の交... 雲跡の... 相高...  
... 首... 此... の...

六 雲跡... の内... の事...  
... 申... 傳... 事... あり

傳授の... 乃... 乃...



あつていへりし

廿三 細口の花入ふ物也 細口は細く花入の口つくれ也

極小の花を入る戸の中首より中傳をけり

廿一 口大きうる花入ふ物なり

口の大ききうる花入ふ水のこゆるやあまといひ入ふ  
りしこしら極小葉を入る事 石丁然

廿二 葉茶葉二ツ 床小葉の事

茶の子細なり 葉茶葉二ツも床小葉といふ事  
斗なり但しの道は日一回二ツ葉しといふ  
葉茶葉斗二ツも葉といふ事

廿三 床小葉は板の道より葉の事といふ事

只今用おまのりんともはる事と申す事  
小石入の只今しつとぬ物と申すの事  
是れは葉の事

廿一 多福羽葉 いろいろも葉の事

と合せてある事 月ふはしと申す事  
羽の事と申す事 有葉二ツ有葉の事  
活く事なりといふ事

廿二 名物の蓋を葉柄ふ事

蓋の事と申す事 名物の事  
柄の事と申す事 いろいろの事  
の扱ふ事 蓋の事 活の事 柄の事  
を扱ふ事 葉柄の事 名物の事



八幡宮とて惣引 天子の御軍 皇外に侍の御流は自  
也の道徳のよし

五 床不殿 石葛をくた人 並に及

此二名を相寄るの床も首より並にとり事なり  
望みあらとまへ白あらしは留儀 新交なりぬり

主 せん一竹 天井のやらは留儀をく別り有り

並返の茶の湯ゆびくまをささきゆかり 家不

しよて改修ゆびに 並返と合意と一 惣引の

取巻と寄入く物持と一 茶とよさふ音新

ゆれハあやこりゆりとはてと品とゆり 心を樂い

道徳也くゆりゆりありハあ人の張きなり



六 一柄の青く火箸とせん五すき屋をほくハ風炉の

火箸一せん 約二せん いろいろの火くハ風爐不

柄のあきく福の火箸ハ物事 並にその時ゆり

ゆせのゆり付用と事なり

七 いろいろの角尺ハ佛法のゆ持あり

相寄ハ佛法を肝要とすハ 世界のうらんゆり

もほひゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

八 余不の火 風炉のゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ひきたりとも亭主の風情の肉と紅真の月有る  
寝ふらしむに知れ有へきことのなかり

廿三 書ふりり落梅ふ持育書あかりてハ落梅を  
前へ引知一重と有くこと首らりのあかりなり

道中書ふりりし時ふ麻うまものまら書この目  
こつをて落梅とあれしこと有く一先師  
物所ふりり

廿四 河成の書は夏 前へ重くふ枝と有る事

廿五 あり何方ふ為成ともふ扇ふらことあり  
床小花入りて有く時茶入と柳へと有る事  
事一 菊の事あり一昔うりの菊ひかり

廿七 くりぬ書入床小者一内茶入の袋細紙の事

是ハ片紙あき夏ふしとも菊ひの二つふ及書有い  
袋と懐へ入の腸もをん事なり

廿八 日の夜睡掛くくく火と有り一丁戸の事

つらあの前めくをと知へ一 行燈とせう灯

廿九 床小掛物とくり又窓小花入を有る事

を花入りの事

三十 床小茶入と重合を後うす板小花入と重合の事

かけものとりやしてハこの然の事

別義あり一

三十一 余りぬ人の道具らつて事



入るまで茶入のあつた茶入のたの服ふ茶入と  
たのけは夏も有り雨陰茶入と冬遠まきと  
事なり

星一 茶扱ふはく茶扱の事

茶扱をろふたろふとありて茶扱のろくは清て  
わくへー ゆるる茶扱ふはく茶扱て作なり

星二 神と成用と成用と成神と成事

ゆふ有ゆと神とありひ 後ふありのそ用とわけて  
ろくもわくへー 遠へても成事と成

星三 茶扱の時茶入つたあやれ事

口傳の時教はくく何の茶入もあやれ

日事なり

星一 蓋を小針と柄扱の事

ゆふ茶のろくを心あけく 柄扱と丁をろくあつ  
くは心中あり

星二 自在をろくありて茶扱の事

茶扱向き扱へくは口傳外別儀なり

星三 自在ふつたあやれ事

天井もききたあやれくはあはくまのちふ今可は  
くまをくく丁掛自在の行を長くあはく  
あはくまのち事なり

星四 自在のあやれ口傳の事

利休のあやれ有首の



真の事をり口枯多雨を茶井合しく巻天風  
をふ茶入のせ茶の湯はよりかき心持あり  
を茶

辛八 亭まじやく風炉へとい時の変

時々〜無茶むと〜ものをふ茶〜まじやく〜いり  
かき風炉へとい〜いり〜茶と〜事なり

辛九 巻小なりあ〜いり〜有茶の巻みと茶を茶府

天目と〜れ〜いり〜巻と上座へ〜いり〜事なり  
いり

辛十 あり〜と〜切と〜茶合の事

是巻〜いり自然ぬ〜茶合〜何何〜いり

の時水〜の先へ〜と〜茶合なり

辛十一 茶の湯は〜いり〜茶と茶の湯

いり

辛十二 巻の外類〜いり

巻の外類〜いり〜茶の湯は〜いり

辛十三 諸道具箱の法は〜いり

蓋と〜いり〜の角と〜いり〜のあり  
法と〜いり〜茶を圖なり

辛十四 余所あり茶立の何の事

あは〜いり〜茶立〜いり〜曲〜いり  
〜いり〜茶立〜いり〜曲〜いり



七十三 中入の付の事 是も別義なり

高後高敏の人と只のゆかり 更なる事 常の寄付にゆかり 和の一事なり

七十四 一書不秘しては傳ふこと者

是ハ一書中の乳金のまかり 常ふまかり 乃

七十五 座敷ふりちりくさくさへ 乃

ケ業ハ右織部 乃 乃 乃 乃

七十六 御前の業の事 春天目の付ふ書と

て 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

七十七 業入の蓋の事 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

七十八 業入の袋の事 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

七十九 業入の袋の事 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

八十 業入の袋の事 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



長徳ハ真のりのこら云秘事ハ  
鄭言付い口傳者へ

十二 龜の袋とツナ 真の袋の袋とくニツナ者もの  
なり馬の袋ハ何れも織物とツカリ長徳なり  
新妙の袋ハ一重袋なりツカリお一ふむくを取て  
袋とほきとつたれものなり 於袋一袋のくへ  
命と者へ

十三 萬事道具名前の事  
あとの名知ふ名と付く世らふいお別者なり  
の名知ハわいふこの道具とる尋うなりなり  
至合あくあさりの事 利休のゆき

十四 人の伝はる書と有る人ハ傳文の伝なり  
氏傳 津田一掃部 杉村吉部 細川三敏 高田  
織部 々々

十五 みの至合く事  
墨跡善入茶入炭取のむくく令世あなり  
世外ハ茶茶茶茶 至合のものみの印ハ伝  
かり

十六 一流の才子の事 傳文ハお伝を印る伝  
お傳は才子と一流ハハ  
一通りお傳は事 伝乃茶の湯  
事と傳ハ才子と一通りハハ

半七一 真の葉乃書一。 是ハ細め傳ふいふす葉の  
をり人ふより一通りのすもあもを傳ふとあふい  
同くと一流のす子半ハ傳へた事なり  
半八 雲跡愈老乃書一。 是ハ一流のす子か  
はさへさささとの介乃細りなり

半九 詔略乃葉湯と一尺守のいろをて可有分別  
是ハ詔略のうけあはれいなく けささくをえせん  
あふ乃々あふなり

半一 雲跡の書具さるるのほりひやあはれ有  
表り乃一老書なりとの有く ねは傳有へ  
半二 同紋ふ心物あり 是ハ右の書付有

半三 御成の付表向の之幅一對の書  
右乃書付の内有 右日前

半三 同御書院の之幅一對の書 右乃書付の内有  
一羽乃書 ちりちり寸法有 又人此紙を書

半一 名物の道具而物してはさまの書  
名物何とのもの而物乃人の品物何の書なり

半三 雲跡まきと流し道の書  
是ハ一老の流し道なり 書なりとのりた  
雲跡のまきと流し道の書

九十八

云々... 雲跡を紙の裏 是も... のすき者

九十九

珠光... 乃事

之をの... 利休

和亭... 珠光

は... 利休

た... 利休

川... 利休

清... 利休

二... 利休

甲... 利休

と... 利休

此... 利休

湯... 利休

の... 利休

一... 利休

代... 利休

書... 利休

此  
三百箇條之辨三冊者此道之甚秘也  
仍數年好望  
正通公之御本令納借書寫畢尤他見  
所禁也

元祿十一戊寅春日

茶話告繼集序

夫茶之爲飲發乎神農聞曾用公齊有晏  
嬰漢有場雉七佛師文珠大士於五臺山  
與無著喫茶有真如茶古來獻佛以茶矣  
風穴賞茶匡三巡度諸祖師賞茶盧仝作  
茶歌陸羽著茶經山谷又我家江南摘雲  
映建安北花金州西城爲茶之地於本  
朝論之壽上人回日亦以柶尾山茶見惠  
爲第一宇治次之近代好茶者以宇治爲  
第一千光國師茶德著十卷書佐々本佐

渡判官入道々誉定七種苑宇文字朝日  
森河下奥之山岩井上林是也叔氏樹下  
結草庵喫茗散工夫爵氣儒家向学窓因  
之覺夫五睡雖三国用之未定格或于茲  
文明之比南都有珠光云者住星明寺傍  
妙蘆四悟禪師之筆跡并于一休老和尚  
懸壁問樂此道以茶湯爲業鳴世門人能  
阿弥從之矣云云の乃軍と義政公と号此  
東山小陽道一歩ひく意照院敏と中多招月  
乞翁寺小通也せ〜れ源氏物語後撰の次子  
後勅と傳言一云先中多歩青の由小人の云と

定終あ〜ハカ〜て有爲將衰の世と歎くのを  
いけ〜ハ我々年固〜巡攝の戲也川邊遊の終も  
冷〜竹分管法も〜ありぬ工も度禪も何〜  
けけ〜さ〜あり何れも感と感んや各是と思  
量せ〜と室ひ〜れ〜も近行各はと字小似〜あり  
沙日朋能所保畏〜も多きあり〜と〜  
南都小珠光をい〜その榮北湯の道あり〜  
佛乃と〜と〜祖念小徹を初と名て世道と云  
り是乃と〜と〜大光の寮傳又築門久安  
實〜と俗客を〜細帽小頭と名れり自〜  
〜と喫止碧雲引風吹不新白花涼光超院









魚、海と川、秘藏より冥地へ行く、易者の心、其の  
より且そのの樂とほしくも、善を乞ふ、無常法  
無常の付、是と指す、白首の道、徒、善く進ず、  
有く、後、大坂、ゆゑ、八、字、極、こゝ、河、愈、と、相、見、  
勤、也、極、生、ま、る、人、極、ふ、百、か、れ、茶、の、湯、の  
湯、水、付、こゝ、是、候、杉、葉、の、藏、光、と、夜、信、ふ  
室、り、我、多、候、あり、と、い、へ、も、細、き、流、と、汲、松  
樹、と、匂、ら、い、水、と、飲、ま、さ、と、夢、と、強、尾、下  
付、ゆ、り、ぬ、り、年、七、十、旬、余、有、り、八、七、老、を、あ、て  
而、敏、髪、白、く、穢、小、人、世、の、慚、愧、と、あ、そ、く、人、さ、り、り  
其、あ、け、れ、ら、和、多、一、任、地、強、命、と、強、ふ、あ、り

さ、是、ハ、豈、修、首、の、言、と、兼、意、甲、午、九、日、夜、乃  
夏、の、浮、橋、始、と、あ、く、と、曉、の、去、筆、ふ、い、り、と、あ、り、  
お、り、ひ、わ、一、独、り、あ、り、と、い、へ、と、い、へ、書、付、ゆ、  
万、事、の、集、赤、人、の、旅、あ、り、ゆ、り、昔、言、集、と、号、  
一、一、舊、事、と、い、へ、と、い、へ、一、一、早、ぬ、

